

6年生「手漉きの卒業証書づくり」(全工程)



杉原谷小学校特別教室「春蘭の家」(校舎に隣接する紙漉き小屋)

4月から11月までにもトロロアオイの植え付けや椿の木の脇芽摘みなどの作業をしますが、本格的な紙漉きに向けた作業は11月下旬より開始します。その時の様子を紹介します。

○さなてぎ-11月19日(木)-

6年生の卒業証書づくりが始まりました。最初に行ったのは、「さなてぎ」と呼ばれる工程です。今回は2・3年生が応援に駆けつけ、紙漉きの一工程に触れる機会としました。

まずは3年生が収穫したトロロアオイの根を木槌で細かく砕いていきました。2・3・6年生でグループを組み、力を合わせて粘り強く作業に取り組みました。



木槌を叩く音が校庭に響きます。手を真っ赤にしながらも1時間後には根の繊維を潰す作業が終了し、最後に布袋に詰めて、一工程が終了しました。

○楮刈り-11月26日(木)-

大袋と市原の老人クラブより4名の指導者を迎え、5・6年生で楮刈りをしました。子どもたちは老人クラブの皆さんのアドバイスや手助けを受けながら、大切に育てた楮を丁寧に刈り取っていききました。刈り取った楮は、一定の長さに切りそろえ、30kgの束を作っていきます。今年は楮の生育はやや不良でしたが、無事卒業証書を漉くだけの紙料は収穫できました。ご指導いただいた4名の皆様、有り難うございました。



○楮蒸し-12月1日(火)-

1・2校時に、『楮蒸し』の作業を行いました。

11月25日に5年生と一緒に刈り取った楮を、釜の上に設置した円筒形の容器に入れ、水蒸気で蒸していきます。蒸し上がるまでは、6年生が分担して火の番を努めます。

約1時間で蒸し上がると、楮を手に取り、木の周りの皮を剥いていきます。蒸したての楮の木は軍手をはいていても熱く、手を離したくなります。でも、子どもたちは楮の皮の大切さを知っていますのでじっと我慢し、できるだけ皮が引き裂かれないように、丁寧に剥ぎ取っていききました。

子どもたちからは「楽しいなあ。」「楽勝や。」という声が聞こえてきましたが、次の『黒皮とり』や『川さらし』『楮たたき』等の工程に入ると、どんな声上がるでしょう？「楽しいなあ。」と思える工程ばかりなら良いのですが、そうはいきませんよ。



○黒皮とり・川さらし-12月2日(水)-

この日は、午前中に『黒皮とり』を、そして午後に『川さらし』の工程に取り組みました。

まずは、『黒皮とり』から開始しました。昨日に剥いた楮の皮から、表皮の黒皮（茶色い皮）をとっていきます。黒皮がとれると緑色の薄い皮が顔を出すので、次はその皮をとります。大変根気のいる作業です。子どもたちは軍手をはき、片手にへらを持って、半日かけて作業を行いました。



午後の『川さらし』は、杉原川で実施しますので、長靴に雨合羽姿で出かけました。束にした白皮を水にたたきつけ、汚れを取り、その後川に沈めて一晩おきます。水に一晩さらすことで白さを際立たせることができます。

なお、午前中は、1時間だけですが4年生と一緒に作業をしました。また、午後は1年生が杉原川までやってきて、『川さらし』の様子を見学しました。

○きず取り・楮炊き-12月4日(金)-

この日は2工程を実施しました。1つ目は、『きず取り』です。白皮にある擦れたり虫に食われたりすることで出来た「きず」をはさみで除去していく作業です。これを丁寧に行わないと、紙が完成したときにゴミが付いたような汚れになってしまいます。それを聞いた子どもたちは、声も出さずに黙々と作業をしました。



2つ目は、『楮炊き（釜焚き）』です。水とソーダ灰をいれた釜で楮の白皮を炊きます。ソーダ灰をいれて炊くことで、白皮の繊維を柔らかくすると共に白さを引き立てる役割があります。煙にむせながらも、最後まで火の世話ができました。

○楮たたき・ゴミ取り-12月7日(月)-

今回の工程は、紙を漉く前の最も重要な工程となります。前回に蒸した楮の白皮を木槌で叩いて、繊維を砕いていく作業です。

午前9時に作業はスタートしました。気温は3度です。校舎の外にいただけで体が冷えてきます。その中でただひたすら木槌を打ちます。カーン・カーンという音が校庭にこだまします。手を抜くと、繊維は糸くずのように残ってしまいます。ただただ根気のいる作業です。でも、美しい紙を漉くために、みんな妥協を許さず取り組みました。最後には、身を切るような冷たい水に、叩きあげた白皮をつけ、ゴミを取りのぞいて作業は終了しました。いよいよ10日に卒業証書を漉きます。



○卒業証書漉き-12月10日(木)-

さあ卒業証書漉きの日がやってきました。今回は、多可町立杉原紙研究所より講師をお招きし、午前中をかけた作業となりました。前回に実施した『楮たたき・ゴミ取り』の作業がしっかりとできていましたので、繊維が十分にほぐれ、最高の条件で紙漉きをスタートできました。

まずは、講師の先生より話を聞いた後、出席番号順に漉き始めました。気温が0度まで冷え込む中で、子ども達は寒さだけでなく緊張感で手を震わせながら、紙漉きに取り組みました。数人が漉くと紙料やネリ（トロロアオイの根から採った粘液）の量が減ります。その度に、紙料とネリを追加し攪拌しなければなりません。一人2枚ずつ漉き終わる頃には、お昼近になっていました。

心を込めて漉いた卒業証書。きっと満足のいく出来映えになることでしょう。



○紙干し-12月11日(金)-

最終工程である『紙干し』を実施しました。前日に漉きあげた卒業証書は、すぐに杉原紙研究所まで運び、圧縮機を使って水分抜きをしました。そして、この日に、最終仕上げの乾燥作業を行いました。子どもたちは、自ら漉いた証書をベニヤ板に張り付け、この後 1 週間程度をかけ、陰干しにて自然乾燥をさせていただきます。

多くの作業を経て、完成間近となりました。



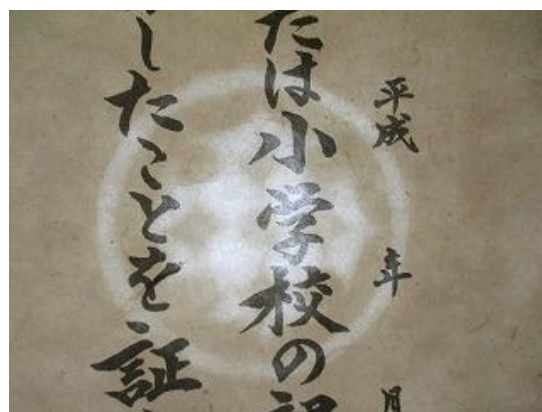
○卒業証書完成-12月17日(木)-



乾燥させた時にしわにならないように表面が加工されたベニヤ板に貼り付けた卒業証書を 1 枚ずつ剥がしていきましました。ベニヤ板にくっついた面は光沢がありツルツルしています。校章の透かしもきっちりと入っており、見事な卒業証書が完成しました。

最後に後片付けをして、全行程が終了しました。次に子ども達が卒業証書と対面するのは、3月23日の卒業式当日となります。

○印刷された卒業証書が届きました



○文字が入るとグッと重みを感じます

○中央には校章の透かしが入っています

6年生以外の紙漉きの様子



1年生



2年生



3年生



4年生



5年生
